

地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の在り方
ワーキンググループ(第4回) 議事概要

1. 日時

令和6年3月28日(木) 13時～15時

2. 場所

オンライン

3. 出席者(敬称略)

構成員: 中尾 彰宏(主査)、大山 りか、小林 寛史、成末 義哲、太田 香、黄瀬 信之

オブザーバー: テレコムサービス協会事務局、一般社団法人 電気通信事業者協会(TCA)、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、東日本電信電話株式会社(NTT 東日本)、西日本電信電話株式会社(NTT 西日本)、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社

4. 議事概要

(1)地域における通信環境の実態調査 結果報告④

・三菱総合研究所(MRI)発表(資料4-1)

(2)地域におけるデジタル技術の利活用を支えるデジタル基盤の利用環境の実態を踏まえた利用者端末を含むエンド・ツー・エンドの利用環境整備の方向性②

・東広島市ご発表(資料4-2)

・公設民営方式について紹介があったが、順調に進んでいるのか。(中尾主査)

→順調に進んでいる好事例として紹介した。民間事業者で自走可能な状態・体制になっている。加入率が維持できると運用がしやすい。(東広島市)

→長期的な視点では人口減少も考えないといけないという指摘として理解した。(中尾主査)

(3)論点整理

・三菱総合研究所(MRI)発表(資料4-3)

(4)意見交換

・東広島の発表内容にあった放牧の件、バヌアツで放牧が進んでいることを紹介する。MRIが発表したレイヤの分け方について、AIもトラヒックを大量に使う。予算規模を考えると細かくユースケースを分ける必要があると考える。例えば、放牧監視の観点では遅延も重要。ま

た、ラストワンマイルだけではなく、上流側のネットワークも考慮すべき。北海道から東京経由をして通信していると遅延が生じるなどの例もあった。(JAIPA)

・資料 4-1 の調査結果について、財政指数が高い地域で通信の安定性の問題が多いとあったが、トラヒック量が原因なのか、それに対してどういったところから手を付けるべきか(太田構成員)

→トラヒック量は一因と考える。対策の優先順位付けについて深堀が必要。(MRI)

・資料 4-3 の課題の全体像について、アプリケーションについてもユースケースにより変わってくる部分はあるが地方公共団体で抱えている問題は共通しているので、ハードウェアやソフトウェアは自治体ごとに作るのではなく共有していくべきと考えている。東広島市のホテル、放牧の例なども自治体間で共有してソフトウェアも自治体間で共有し、ノウハウも共有できる場があると良い。(太田構成員)

→ご指摘の通り。ソフトウェア領域でも共通化できる部分など見ていく必要がある(MRI)

・資料 4-3 にある重点分野としてモビリティ等があるが、それ以外にも教育など重点分野はある。(大山構成員)

→資料の後半にあるが、学校・図書館等の公共施設もスコープとなる。(MRI)

・工業や製造業の課題を挙げていたが、地場産業として含めているか(大山構成員)

→地場産業として一括りにしているが、地域によって異なってくると考えている。産業としてその地域で重要度が変わってくる。(MRI)

→工業や製造業も日本の基幹産業なので、重点分野になると考える。(大山構成員)

・データ連携基盤について太田構成員の考え方に賛同。自治体ごとに個別に構築することは非効率(大山構成員)

→データ連携基盤は自治体ごとに構築を進めると個々に課題が生じる。横断的に基盤を構築し活用する方法もあると思うが、どこまで基盤を広げるか検討が必要(MRI)

→論点整理については、重点分野に入れるべき産業など積極的にご意見をいただき、ブラッシュアップしたい。(中尾主査)

・資料 4-1 で、現在と将来のデジタル技術の検討・導入で課題がある分野について、農業の課題が少なく見える。一部のデジタル化を進めている農家からは通信に対しても多くの意見が出てきているが、そうではない農家は声を上げないので課題が小さく見えてしまっているのではないか。(黄瀬構成員)

→ご指摘の通り、岩見沢市のようにデジタル化が進んでいる地域もあれば、デジタルへの関心が低い地域では課題認識がないのではないかと想定している。ただ地場産業として農業が重要な地域もあるので、それも含めて課題解決の方向性を検討していきたい。(MRI)

→このデータは、例えば農業のデジタルの人材不足の課題提起としてのデータになるかもしれない。(黄瀬構成員)

・資料 4-3 について、農業だけでなく医療、Maas 等も地域課題を複合的に実装できるデジタル基盤はどういうものなのか、可視化すると選択しやすくなるのではないか。そのあたりも整理が必要。(黄瀬構成員)

→ご指摘の通り。1 つの基盤の上に複数のソリューションを実装してデジタル化を進めていくというのも求められる姿と思う。投資効率等も踏まえてグランドデザインとしてまとめていく必要があり標準モデルを整理していくことが求められる。(MRI)

→地域の中で行政だけでなく地域住民も含めてちゃんと地域で考えて目指す姿を描く必要がある。(黄瀬構成員)

・国として支援していただけるという方向になると思うが、政府が様々なものを負担することだけを打ち出すのではなく、どう投資して回収するかもしっかり考える必要がある。(黄瀬構成員)

→今後政策を考える上でのポイントになる。東広島市でも公設民営に取り組まれた例があった、全てを国が助けるのではなく、自治体の自助努力も含めて整理していく必要がある。(中尾主査)

・前橋市の取組について、モビリティ全般の取組として MaaS や自動運転もいれてほしい。公平性の観点で、離島や山間部などユーザ数は少ないがニーズの重たさ、逼迫度の高いユースケースについて重要度や公平性を考える必要がある。ネットワークがぜい弱だと行政でも交通でも進められない。一定程度、中期的な運用への支援があってもよいが自走できるための土台になるように支援すべき。(小林構成員)

→重要な投資先は構成員の方々や発表・ヒアリングで入れていただいた意見等が重要。ランニングコストは未来永劫支援していくこともできない。そのあたりの条件を整理していくことも必要。(中尾主査)

→国交省の事例のような補助金などあり過ぎるとランニングに対して補助される仕組みそのものはテーマによっては、また中期的な観点では良いと思う。ただし、長期的にその補助ありきで事業が構築されてしまうと本質がずれてしまう。「一定程度の」という部分が重要。(小林構成員)

・資料 4-3 について、ミドルレイヤまで含めて考えることに賛成だが、ミドルレイヤとしてどのようなものがあるか。モノだけでなく(教育など)他の点での支援として必要なモノがあるのではないか。(成末構成員)

→いかに活用するかということも重要。使い方、要件定義も含めて様々な雛形や、それを使う人材面もある。ベストプラクティスについての情報を提供することも含まれてくる。(MRI)

・資料 4-1 について小規模医療施設に大学病院が接続したくないといった事例があったが、

ネットワークを作っても使われないという状況は避けないといけない。また、公設民営をうまく進めるための支援も必要。(成末構成員)

(5)事務局からの連絡事項

・次回 WG の開催日程は別途ご案内する。本日の議論は次回以降に報告をご提示できるように進めていく。